

VINTAGE & CURRENT



Rosewood Fingerboard

ローズウッドフィンガーボードと言うと62年ストラトキャスターを連想しがちだが、プロトタイプとして50年代後半のジャズマスターでこの仕様は試作されていた。初期のものはメイプルネックに対しフラットに貼られていたが、62年からネックの曇れを抑えるために、薄いローズウッドをフレット

ボード表面のアールに合せて接着面にもアールを付ける、という手のかんた貼り方を採用した。ここで、メイプルネックの方が、ローズウッドフィンガーボードのようにメイプルをネックに貼ったメイプルフレットボード仕様がある。こちらの方は67年のことだ。ジ・ヘンドリックスのストラトでお馴染みのST67-85がそれである。

Tremolo Unit

テレキャスターがエレクトリックギターの基本であるように、ファンダーシンクロナイズド・トレモロはすべてのトレモロの基本形である。そしてこのトレモロは永遠にプランニューなのだ。構造について解析してみても、プリCBSのタイプではブリッジとブロック(イナシャブロック)の2つのパーツに特筆すべき数々の機能を凝らしている。例えば、質量のあるイナシャブロックをテールピースとして利用しデッドポイントを解消。さらにそれをカウンターテンション用のスプリングフックとして使い、ブリッジはアジャスタブルで、おまけにこうした機能を限られたスペースに収めている。カウンターテンションは5本のスプリングを何本にするかで調節できる。ギタリストは好みの本数をセツすれば、ハードにもソフトにもタッチを変えられるわけだ。これによりインジグウェイ式のアームでダウンのみならずアップが可能となった。70年以降

ではブリッジプレートとイナシャブロックを垂直系の合金構造によって一体化し、同じくブリッジサドルもキャスタリング(構造)に変わるところで、ジャズマスターやジャガーに装着されているフローティング・トレモロだが、シンクロナイズド・トレモロの後継者に対しこちらはマイルドな動きをセールスポイントとしたユニットだ。ブリッジとテールピースはセパレートになっていて、カウンターテンションは一本のヘヴィーチューンした圧縮スプリングが作り出す。トレモロのテンションはテンションスクリューで簡単に調節できる。この当時にトレモロをロックするTREM-LOK機構を開発装備している点にも注目したい。フェンダーのトレモロはすべてのトレモロの基本形であるという事実、これだけでも十分理解していただけるはずだ。



VINTAGE Tremolo



Vintage Pickups

Current Pickups

Pickups Stratocaster

ヴァンテージとカレントとの違いをプロポジションで判断するのは適切ではない。それぞれのパーツをじっくりと見ていくと、プリCBSとCBSの間にはウッドマテリアルやハードウェアもさうだが、ピックアップに微妙な変化があったことに気付く。プリCBSヴァンテージのポールピースが各弦のゲージに合わせて、高さを覚えてセツしてある(移動可能)のに対し、70年代カレントはフラットである。使用コイルの巻手にそれほどの違いはないが、インダクタンスや直流抵抗に差がある。その理由はタイトゲージが登場し、それまでのストリングアレンジが崩れ、1-3弦までがブレインになってポールピースへのアインがフラットになったからだ。もちろん、プリCBSのピックアップの方がスイートなトーンであることは言うまでもない。

Pickups Telecaster

テレキャスターのピックアップを数値で見ると、2つのピックアップで特徴的なサウンドを表現するために、個性の異なるキャラクターを前後に置いた。そう考えるのが自然だ。リズム側はストラトキャスターに比べ巻手の多い(細い)コイルを使い、たっぷり巻いてある。リード側では巻手を下げた約8,000ターン巻き、ピックアップ下にスチール板を貼って高域のゲインをかせいでいる。今ではあたりまえになっているが、ワックスによるポティングがハウリングを抑えている。こうした処理をきっちり施した結果、2ピックアップからなる表情を持つ伝説的なファンダー・トーンは生まれた。TCやTNに採用しているハムバッキングピックアップについても、当時の同タイプの物と比較してポールピースは大きく、独特なレイアウトでデッドスポットを解消している。など注目する部分が多い。



TN72-13

フェンダーのメカニズム。それは、エレクトリックギターのメカニズムのことを指している。そこで、その魅力的なディテールの一部を紹介しよう。すぐに気づくのは、これらのメカニズムが、現在、すべてのギターの標準になっている。あるいは標準装備されている、という事実だ。じっくり読んで、フェンダーの本質に触れていただきたい。



END ROX

END ROX

ストラトキャスターに装着されているシンクロナイズド・トレモロユニットの効果は、最大限に発揮させるスマートなロックングシステム。ブリッジ側からではなく、糸巻側から弦を通し、トレモロブロックで弦をロックするだけ。ストラトキャスターを改造することなく装着できる。

SYSTEM I Tremolo

Blade Shooter Vibrato

ブリッジ部で弦、及びブリッジサドルをブリッジプレートに完全にロックし、アーム時のチューニングの狂いを追放したニューメカニズムのトレモロユニット。ブリッジサドルはロストワックス方式を採用した高精度、超硬質でロックした時の弦の食込みを解消。一本一本を確実に音質劣化させることなくセッティングする。また、ブリッジプレートは切れ味のいいナイフエッジの2点支持方式でストレスのないアームングドライブを保障。



SYSTEM I Tremolo

SYSTEM III Tremolo

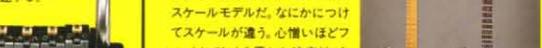
Blade Shooter Vibrato

システムIIIは3つのエレメントから成り立っている。その1はフローティングの状態を自由自在に可変できる機構だ。ユニットは高剛性に優れた2本のスプリングによって引ばられている。そしてスプリングはエンドピンからフロントPU付近にまで内蔵されているロッド棒にその一端が固定されていて、ロッド棒上を移動できる。エンドピン側のロッド棒はアレンナットになっていて、レンチで回転させることで、スプリングを固定したプレートが滑るように移動していくわけだ。フロントPU側に移動するとスプリングは引ばられ、ユニットはボディに接近する。リア側に移動すれば、その逆になる。曲想や弦のテンションに合わせて角度を深くも浅くもできる。ところで、アレンナットを回転させるアレンレンチは

SYSTEM I String Locks

Cam Arm Nut Lock

システムIIIで触れたストリングロック機構。カムアームナットロックと呼ぶこの機構だが、弦はメタルナットの上を通過し、このストリングロックの間を通過して弦巻にゆく。ストリングロックは1弦側にあるレバーでワンタッチロックする。ワンタッチロックによってストリングロックが締まり、弦をベンドしてもチューニングが狂わないのだ。また、ストリングロックの6弦側には弦の太さに合わせてストリングガイドの間隔を調整するネジがあり、ギタリストのゲージに合わせて、ロックすることができる。全ギタリスト対応型のロックシステムだ。

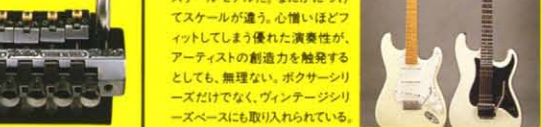


Cam Arm Nut Lock

SYSTEM III Tremolo

Medium Scale

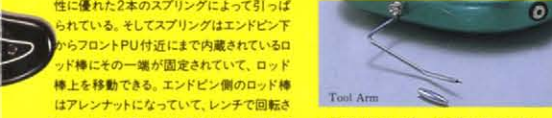
ギタリスト、ベースの左手にショックを与えるファンダー・ジャパンのオリジナル・カスタマイジングがこの314、406のミディアム・スケールモデルだ。なにかにつけてスケールが違ふ。心憎いほどフィットしてしまう優れた演奏性が、アーティストの創造力を解放するとしても、無理ない。ポクサーシリーズだけでなく、ヴァンテージシリーズベースにも取り入れられている。



Left: ST314-35

SYSTEM III Tremolo

システムIIIは3つのエレメントから成り立っている。その1はフローティングの状態を自由自在に可変できる機構だ。ユニットは高剛性に優れた2本のスプリングによって引ばられている。そしてスプリングはエンドピンからフロントPU付近にまで内蔵されているロッド棒にその一端が固定されていて、ロッド棒上を移動できる。エンドピン側のロッド棒はアレンナットになっていて、レンチで回転させることで、スプリングを固定したプレートが滑るように移動していくわけだ。フロントPU側に移動するとスプリングは引ばられ、ユニットはボディに接近する。リア側に移動すれば、その逆になる。曲想や弦のテンションに合わせて角度を深くも浅くもできる。ところで、アレンナットを回転させるアレンレンチは



Tool Arm

その2はトレモロアームとブレアビリティだ。当然ブリッジアップリを形成している各エレメントは独自性にあふれ、例えば、数段な支持部、



ST735 SYSTEM III Tremolo

SYSTEM I String Locks

ポクサーFシリーズをはじめ、SYSTEM I Tremoloを装備した機種に装着されているストリングロック機構。弦のたわみを完全シャットアウトした設計によりチューニングの狂いを解消。正確な音程をキープ。しかも、チューナーガイドにより理想的なテンションからロングサステインが響く。また、ロックしたまま手でフィンチューニングやオクターブチューニングができるフィンチューナー・アンプ、ストリングリタイナーとしても使える応用力なストロングなギタリストにはたのしい機構だ。



SYSTEM I String Locks

SYSTEM III Tremolo

システムIIIで触れたストリングロック機構。カムアームナットロックと呼ぶこの機構だが、弦はメタルナットの上を通過し、このストリングロックの間を通過して弦巻にゆく。ストリングロックは1弦側にあるレバーでワンタッチロックする。ワンタッチロックによってストリングロックが締まり、弦をベンドしてもチューニングが狂わないのだ。また、ストリングロックの6弦側には弦の太さに合わせてストリングガイドの間隔を調整するネジがあり、ギタリストのゲージに合わせて、ロックすることができる。全ギタリスト対応型のロックシステムだ。



Cam Arm Nut Lock

BOXER series